

支え合うきよせ委員会（清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体）

第10回 地域資源・ニーズ把握部会（A部会）記録

日時	平成30年1月26日（金） 9時30分～11時45分	場所	情報労連東京福祉センター
出席者	内田部会長、田中副部会長、阿久津委員、金川委員、名古屋委員、福嶋委員、田島委員 生活支援コーディネーター：鍵和田氏、森氏、原田氏、鈴木 事務局：関口課長、田中係長、上垣氏、吉村氏		
欠席者	小野委員		

1 本日の報告事項・議題

- ・ 昨年の取り組みを振り返って
- ・ 今年度3月までの課題
- ・ 平成30年度の課題
- ・ その他

2 昨年の取り組みを振り返って、今年度3月まで・平成30年度の課題

(1) 「地域団体等との意見交換会」について

ア 参加者へのフィードバック（現在の関わり）の状況

各生活支援コーディネーターからの報告は以下の通り。

- ・ 白梅自治会と連絡を取り合い、自治会の総会に参加することが決まっている。支え合いバックアップ部会で開催を検討している「支え合い体験ゲーム」の周知などを行う予定。（森CO）
- ・ 自身は意見交換会などに参加した訳ではないが、サロンなどの活動への訪問を通じて関係性を深めている。支え合いファイルやノートについては、全て配布が出来ている訳ではないため、訪問を継続していく。（原田CO）
- ・ 担当した圏域内では中里と旭が丘にて意見交換会を開催した。現在は清親会と連絡を取り合い、支え合いファイルやノートについて配布をしている。今後も継続していく。（鈴木CO）
- ・ 意見交換会を通じて、これまで関わりが無かった人とも知り合うことができ、地域資源やニーズ把握につながっている。また、支え合いの取り組みに関する理解を促していく点においても有効だと感じている。（鍵和田CO）

イ 「地域団体等との意見交換会」の今年度・来年度の取り組みについて

部会における意見交換の内容と結論については以下の通り。

（意見交換の内容）

- ・ 丁目などが変わってしまうと、地域性が変わる場合も多い。今後もこれまでの4団体と同じくらいの規模で、人数は15人を超えない範囲がいいのではないかと。
- ・ 今年度については、8月から10月までの間に4地域で意見交換会を開催した。意見交換会の開催はどれくらいの頻度で行うのか。前期、後期と分けて目標を設定することもできる。
- ・ 意見交換会の開催後に支え合い体験ゲームを行うといいのではないかと。
- ・ 意見交換会を行ったことで、地域包括支援センターに相談しやすくなったとの声を聞いている。地域の中で核になる人を見つけていくことができれば、口コミでサポーターが拡

がり、支え合いの熱を高めていくことができる。

- ・ 清瀬市では平成30年度中に第二層の協議体を立ち上げ予定。規模や活動は未定だが、意見交換会の開催が第二層の協議体につながっていくことも考えられる。現在、生活支援 CO と事務局で第二層の協議体立上に関する意見交換を行っている。
- ・ 意見交換会の回答の内容については、支え合うきよせ委員会が協力してできることと地域団体に取り組んでほしいことを整理すべき。資料を修正し、全体の内容をまとめた冊子を作成してはどうか。

(結論)

- ・ 来年度も意見交換会を開催する。開催地域については、2 層生活支援 CO が地域と関わる中で意見交換会を開催したいと思う地域の候補をあげ、次回の部会で提示する。

(2) B 部会との連携について

「地域団体等との意見交換会」に関する意見交換を行う中で、B 部会との連携に関する意見あり。B 部会での議論の内容については、森 CO より以下のように報告がある。

- ・ 旭が丘や梅園、竹丘などで支え合い体験会（支え合い体験ゲーム）の開催を検討している
- ・ 自治会や老人会、ラジオ体操連盟、ゲートボール協会などの地域団体などに声掛け予定
- ・ 体力測定や血管年齢診断などを実施し、参加者が増えるようなしなかけを検討している

(意見交換)

- ・ 清瀬市では関連部署において様々な体力測定器具を保管している。様々な方法で実施が検討できるのではないかと。
⇒一方で、借用備品の管理についてはわかりづらい状況がある。備品の種別や保管場所がわかる一覧などを作成し、その上で、購入が必要な備品については支え合うきよせ委員会として提言ができるのではないかと。
⇒健康推進員では体力測定会などでボランティアなどの取り組みを行っている（実測は行っていない）。B 部会の取り組みを実施する際には、健康推進員である田島委員への相談を検討する。他市では、住民主導型の介護予防に取り組んでいる例もあり、視察によって今後の取り組みの参考にすることも考えられる。
- ・ 生活支援 CO より、B 部会の取り組みとして地域通貨ピースの運営委員会にうかがい、活動状況や地域通貨の仕組みなどを把握したことを報告。個人会員（年間600円の登録費）になることで、ちょっと困っていることを他の会員に依頼することができる他、幅広い活動メニューの中から自身のできることを見つけ出し、実際に活動を行うことができる。

(結論)

- ・ 今後は B 部会と二人三脚で取り組む必要がある。各部会の議論内容や取り組みの状況がお互いにわかるよう、事務局や生活支援 CO で各部会の報告を行う。また、内田部会長が柳原部会長とも連絡を取り合い、それぞれの状況を共有していく。
- ・ 地域通貨ピースは支え合うきよせ委員会よりもずっと前から地域の助け合い活動を実践してきた団体。支え合うきよせ委員会としてもお話をうかがうことができないか、今年度中に生活支援 CO の方で調整を行う。

3 その他

(1) 旭が丘団地の空き店舗を活用した居場所づくりについて

- ・ 居場所確保の実現のため、これまで予算確保の交渉に努めてきたが来年度の実現は難しい状況。今後、立川市の UR 事務所に訪問し、再度交渉を行う予定あり。

- 空き家活用については、清瀬市の仕組みとして税制面での優遇措置があることがわかったため、今後も詳細を確認していく。
- 今後ますます地域の中で空き家が増えていくものと考えられている。地域活動のために物件の提供や貸与を希望する事例なども今後は考えられるため、そうした情報があれば各委員からも情報を提供していただきたい。

(2) 情報交換

- 清瀬市で紹介されたという方が関わりのあるサロンにお越しになった。定年後の居場所としてサロンを勧められたようであったが、必ずしも周囲のサポートが必要となる訳ではない。「支えられる人も支える側に立てる」ということを再認識し、ボランティアセンター（生活支援CO）へつなぐなどの働きかけを行っていく必要がある。
- 支えられる人に対し、支える人は圧倒的に少ない状況であり、どのように底上げを図っていくかが課題ではないか。さわやか福祉財団の堀田会長が指摘するボランティア人材が人口の5%など、具体的な数字を設定して取り組んでいく必要があるのではないか。
- 人材確保のために、以前報告のあったボランティア人材バンクにも取り組んでいく必要がある。

4 今後の予定

(1) 本会開催日程

- 2月21日（水）13時半～ コミュニティプラザひまわり会議室4

(2) 部会開催日程

- 3月22日（木）15時～17時 情報労連東京福祉センター「友遊」